



第81回

幕末日露交流の軌跡

# 洋式帆船建造地跡

戸田造船郷土資料博物館

☎0558-94-2384

戸田湾の南奥、県道沿いに高さ3メートルほどの石碑があります。この碑は、幕末を迎える安政の時代、嵐によって駿河湾に沈んだロシア軍艦「ディアナ号」の代替船を建造した場所を示しており、この場所は県の指定史跡となっています。

ディアナ号に乗船していたプチャーチン提督は、軍艦を失ったあと、帰国のための船の建造を幕府に申請します。すると、内湾が砂浜で良湾であることや、山に囲まれ外からの目に触れにくいことなどから、戸田が代替船の建造地とされました。

ロシアの技術将校の指導のもとに、日本側からは戸田の船大工など約200人ほどが集められ、およそ100日で2本マストの帆船「ヘダ号」が完成します。幕府は戸田で建造されたこの船が優れていたことから、同型の船10隻の建造を命じ、そのうちの6隻は戸田で建造されました。また、ここで造船に携わった船大工がその後、長崎の海軍養成機関に派遣されるなど、日本における洋式帆船建造技術の礎となりました。

このような歴史的価値を持つことから、ヘダ号は本年7月、公益社団法人日本船

舶海洋工学会認定の「ふね遺産」として登録されました。

ディアナ号に乗船していたマホフ神父は、窮地を救った日本の人たちのことを「かれらは客好きで善良。オランダ以外の外国人を入国させないという掟に反しても、私たちが愛想よく迎えてくれた。情に厚く、同情心に富み、私たちは滞在中、誰一人として侮辱を受けたものはいない。常に好意と尊敬を示し、日本を去る時にも友情を示し、別れを惜しんでくれた」と記した資料を残しています。

プチャーチン提督は日露和親条約を締結したことで知られていますが、政治的な外交だけでなく、戸田の人たちをはじめとする日本との友好関係も築いていました。造船に限らない、日露交流の軌跡を讀める石碑は、今も昔も変わらない戸田の海を見守っています。



令和2年1月31日(金)まで、戸田造船郷土資料博物館で開館50周年企画展「プチャーチンが結んだ絆 ～日露友好の165年～」を開催しています。



写真は合成です。



©NUMAZU City Office

広報ぬまづ 2019年11月1日号 No.1609

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/>

広報紙に関するお問い合わせ、ご意見・ご感想は  
〒410-8601 沼津市役所 広報課までどうぞ。

■TEL 055-934-4703

■FAX 055-935-1560

■メール [kouhou@city.numazu.lg.jp](mailto:kouhou@city.numazu.lg.jp)

この広報紙は、再生紙を使用しています。